

## 令和6年度 地理的分野 飛騨市立古川中学校 防災教育 第2学年「防災学習～第2学年東北地方学習を通して～」

飛騨市立古川中学校

実施日時／令和6年12月18日（水）6時間目

### 1. 実践の報告

「東北地方～過去の継承と未来に向けた社会づくり～」

◎ねらい 東日本大震災の経験を後世に伝え、風化させないように努力している東北地方の人々を知り、防災に対する意識を他人ごとではなく、自分事として捉えることができる。

### 2. 授業の流れ

#### 1. 導入

- ・東日本大震災の被害を知る、大きな被害があった（津波・乗り上げた船等）
- しかし、被害から立ち直ろうとしている。（復旧した三陸鉄道）

東北地方の人々は、東日本大震災で「体験した出来事を（暮らしの中で）どう生かしているのだろう？」

#### 2. 学び方の視点を考える（予想を聞いてもよし）

「今日の課題を追究するために、2つの視点で調べてみましょう」

- ①今までの生活経験からつながること（新聞やニュースで見たこと・実際に体験したこと）
- ②実際の被災地での取り組み（東日本大震災だけではなく能登半島地震や阪神淡路大震災など）

#### 3. 個人追究する

#### 4. 小集団での交流（3人1組、もしくは班）

#### 5. 全体交流



#### 6. <深め発問>

「木碑は、雨風で壊れやすいのに、なぜ、あえて石ではなく、木を使って碑を建てたのだろう？」

→ 2～3人当てる

Eテレ「明日を守るナビ 木碑の歴史」で思いを知る。

- ・この災害を風化させない。
- ・後世にこの災害の歴史を伝えていく。
- ・自分たちが受け継ぎ、次の世代へ受け継いでいく。

#### 7. 学習を振り返り、考えをまとめる。

- 深めの発問では、生徒たちの多様な考えを共有したことで、最後の「すごい工夫だ！」という意識にもっていくことができた。
- 追究する際には、自分で資料を選択する形をとったことで、主体的に追究する姿を生み出すことができた。
- ▲ 内容が濃いため、1時間では、厳しい内容だと感じた。より深めるためには、さらに、時間を確保できるとよいと思われる。

生徒の様子



「自分の命は自分で守らんといかんなあ」



自分で追究したい資料を探し、生徒自身が主体的に学ぶ。



「学校の避難訓練を中途半端な気持ちでやったらダメだと感じました。」

生徒の学習プリント

